



TITLE:

静脩 Vol. 26 No. 1-2 (1990.1) [全文]

AUTHOR(S):

---

CITATION:

静脩 Vol. 26 No. 1-2 (1990.1) [全文]. 静脩 1990, 26(1-2)

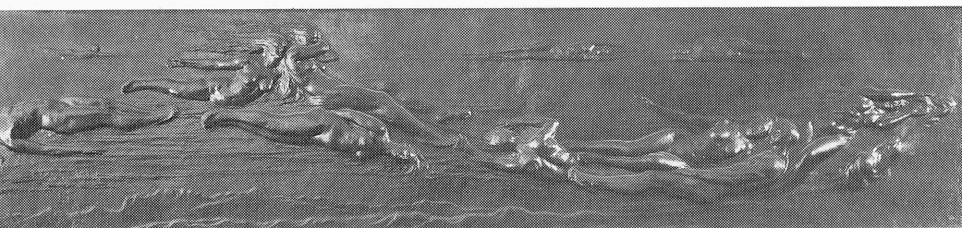
ISSUE DATE:

1990-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/65995>

RIGHT:



# 静脩

1990年1月

The Kyoto University Library Bulletin

Vol. 26, No. 1, 2

## 地域研究と学術情報

アフリカ地域研究センター長 伊谷純一郎

アフリカ地域研究センターは、平成元年の春で創設3周年を迎えた。設置にともなう雑務と現地調査に追われた3年間であった。それでも、情報資料室の蔵書は目下整理中のものを入れて約5000点に達し、それを収納するために、センターのたった一つの会議室を犠牲にしなければならなかった。この点数は、霊長類研究所の創設10年目の蔵書数とはほぼ同じである（平成元年2月現在約7000点に達している）。購入したもののほかに、多くの方々から書物の御寄贈を受けた。この紙面を借りて厚く御礼を申しあげたい。

本センター設立の基本理念は、生態学的方法を基盤とし、自然・人・文化を鼎の三本の脚とするということであった。まだセンターの初期構想の完成には至っていないのだが、自然科学的な色彩の濃い、地域研究のセンターとしてはかなり異色な存在だといってよいのであろう。しかし私は、アフリカの地域研究は、大陸の自然にしっかりと根をおろしたものでなければならないと考えている。

現在、これといって蔵書の特質をあげることはできないのだが、民族誌と、そしてアフリカの自

然に関するもの、動植物のチェック・リストや図鑑の類が目立つ。あらゆる学問分野を網羅した均衡のとれたコレクションを目指すことがセンターの義務だと考えているが、エスノグラフィーとナチュラル・ヒストリーの充実には今後も力を入れてゆきたい。

30年前、今西錦司先生と私は最初のアフリカ調査の帰途、正確には1958年5月28日に、ロンドン大学の社会人類学者ダリル・フォード教授を訪ねた。教授は、国際アフリカ研究所（I. A. I.）の図書室に私たちを案内してくださったが、整理のゆきとどいたアフリカ関係図書の膨大なコレクションを前に、圧倒されたことを思い出す。その後、私たちのアフリカでの調査は30年間続き、いま私はあのI. A. I.のライブラリーを頭に画きながら、センターの情報資料室充実をはかろうとしているのである。

一昨年、故フォード教授の蔵書が市場に出た。アフリカの社会人類学に関する書籍を中心としたコレクションで、何とかして入手したいと思ったのだが所詮は高嶺の花で、そのうちに東京の方で買手がついたという情報が伝わってきた。

これも一昨年のこと、私の40年来の恩師小田規矩之助先生が亡くなられ、先生の全蔵書が私のところに送られてきた。先生は京都大学医学部を卒業されたあと、鳥取市で眼科医として生涯をおくられた方である。先生の蔵書の整理は、私が病床にあったために中断したままになっていたが、漢方に関する和漢籍の一部はセンターの図書に入れた。アフリカと漢方とは無関係ではないかとお考えの方があろうと思うが、私たちはアフリカの多くの民族について、医療と薬方の資料を集めてきた。これらの資料は、大型計算機センターの御援助を得て民族植物学（Aflora）と民族動物学（Afauna）という二つのデータベースをつくり、それに入力しつつある。このような民族医薬学の領域で、もっとも見事に体系化されたお手本が、漢方なのである。

『静脩』25巻3号で、田端守教授が御紹介になった薬学部図書室所蔵の貴重な「本草文献コレクション」の小さな飛地が、アフリカ地域研究センターにあることをご記憶願いたい。また、小田先生の蔵書の整理が終われば、センターの図書にとっては最初の「文庫」にしたいとも考えている。

古代エジプトの象形文字は、世界最古の文字の一つとして知られているのだが、アフリカ大陸に生きつづけた社会のほとんどは、無文字社会のままで近代を迎えた。したがって、この大陸の少なくとも内陸は、古典を欠いているのである。あえてアフリカ内陸の古典とはいえば、18世紀末に始まり19世紀に盛んにおこなわれた探検の記録ということになるであろう。その半ばは見聞録の類であるが、やはりこれを度外視して今日のアフリカを語ることはできないのである。

十数年前に、文学部の松尾尊兌教授から『闇黒亜弗利加』と題する上下2冊の古書をいただき愛読したが、これもセンターの図書に加えた。矢部五洲という人の訳で、明治26年に東京の博文館から出版されている。これは、ヘンリー・スタンリーがエミン・パシャ救出の目的で赤道アフリカを西から東に横断したときの紀行“In Darkest Africa”の邦訳なのである。この探検は1887～1888年の間におこなわれ、同書の刊行が1890年、その3年後

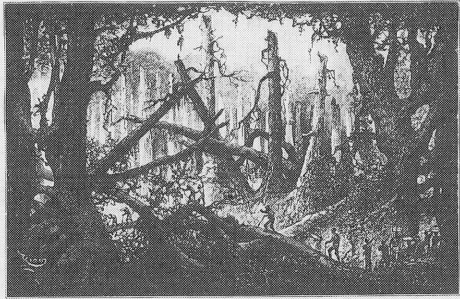
の1893年には邦訳が刊行されていたということになる。文語体の訳文は流麗の一語につきる。

「一婦人の嚮導を得て例の幾多巨木の横はる上を通過し、数個の村落を渡って次第に坂道の上に向へり。須臾にして先導の一人馳せ来りて余に向ひ、日出の方を指さして之を示すにぞ、余高きに上りて之を瞰むに、果して果して余等の希望に希望を重ねたる草原、満目の下に見はれ、山も岡も岸も谷も、眼為に迷ふばかりの緑草を以て蔽へり。顧みて後を瞰めば限りなきの森林は北東の方に向かって馳せたり。是れ則ち余等は明闇両界の境に達せしなり。故に余等は今余等が立ち居る所を距る二哩許の此森林と平原との間に突出せる山を呼んで“マオント、ピスガ”と名付たり。蓋し余等一百五十六日間、幽暗なる森林を通じ来りしの後、初めてイクエトリアの平原を認むるに至りしの故を以てなり。」

このあとスタンリーは、ピスガ山を下り、イトゥリ川を渡り、1887年12月4日には草原に足を踏み入れ、その欣喜雀躍たる感動を綴っているのだが、その場面は略す。私は、スタンリーがここを通ってから83年後に、逆に東の草原から西に向かって、ピスガ山の南を通り暗いイトゥリの森に入った。ピスガ山は、土地の人びとによってルンバと呼ばれていた。それ以来20年近くにわたって、私たちの研究はこの森の中でつづけられてきたのである。

ここにかかげた「林間の躰操」と題する絵には、樹高50mに達する原生林の中に開かれたばかりの焼畑の様子をうかがうことができる。また、この書物に登場する矮人は、今日のピグミーとは著しく異なった存在として画がれていることも注目に値する。今日、森の中の農耕民とピグミーとの間には、いわゆる美しい共生関係が見られ、この関係の起源は古いというのが定説になっているのであるが、スタンリーは神出鬼没の矮人の攻害に苦しめられている悲惨な農民について叙述しているのである。センターでは、これらの「古典」の収集にも力を入れたいと考えている。

このほか、地域研究にとって必須の地図は、赤道アフリカを中心に2,000枚が集まった。また、



主として1960年代に集められた昆虫類は、150科4,000個体の整理が終わり、60箱に系統的に展示されている。魚類や植物の標本の整理も始められ、本年中には相等の数に達する見込みである。これらの標本類は、京都大学自然博物館の計画が実現すれば、移管したいと考えている。

巨大なアフリカを相手に、巨象に槍一本で立ち向かうの図を想うことしばしばであるが、今後とも皆様の御指導を切にお願い申しあげたい。

## 昭和63年度高額図書の購入報告

### 継続購入図書

#### (1) 複数分野

- ・ Bibliographic Guide to Government Publications.
- ・ OECD Publications.
- ・ 国際連合・国際機関及び主要国統計

#### (2) 社会科学

- ・ 有価証券報告書総覧（第1部上場）

#### (3) 自然科学

- ・ Sadtler Spectra : Infrared Grating. Infrared Prism.

### 単年度購入図書

#### (1) 人文科学

- ・ The Arabic Manuscripts in the Library of the School of Oriental and African Studies, University of London. 1,569 microfiches & catalogue
- ・ The Classical Journal. Vol. 1 - 79 (1905/ 06 - 1983/ 84) & G. I. 1 - 25
- ・ 全国小学校連合女教員会雑誌 大正14年10月 - 昭和18年11月 18巻, 別巻 復刻版 (1987-1988)
- ・ Legislative History Internal Revenue Acts of the United States : 1950 - 1951, 1953 - 1972. 780 microfiches
- ・ Tax Reform 1986 : A Legislative History of the Tax Reform Act of 1986 : The Law,

Reports, Hearings, Debates and Related Documents. 64 vols. reprint (1987)

- ・ 国立国会図書館所蔵明治期産業翻訳書集成 万国博覧会編、農業編、工業編、産業史編 microfilm 91 reels
- ・ Afghanistan : An American Perspective. 755 microfiches & guide book
- (3) 自然科学
  - ・ CRC Handbooks. 25 titles
    - CRC Handbook of Antibiotic Compounds.
    - CRC Handbook of Neurohypophyseal Hormone Analogs. etc. (1980 - 1989)
  - ・ Progress in Clinical and Biological Research. Vol. 207 - 226, 229, 231, 233, 234, 236, 237, 239 - 244, 247 - 251, 253 (1986 - 1987)
  - ・ Advances in Experimental Medicine and Biology. Vol. 198, 200 - 207, 209 - 212, 217, 218, 224, 226, 227, 229 (1986 - 1988)
  - ・ The Louis I. Kahn Archive : Personal Drawings. 7 vols. (1987)
  - ・ NATO ASI Series F : Computer and Systems Sciences. Vol. 2-8, 10 - 36 (1983 - 1987)
  - ・ Year Book of Agricultural Co-operation : 1950 - 1985. 36 vols. reprint (1987)
  - ・ Flora Neotropica. No. 2-45 (1970 - 1986)

◎ 備付場所はいずれも附属図書館です。



## 昭和63年度特別図書の購入報告

番号	資 料 名	巻 数 ・ 年	備 付 部 局
1	Jeanson, D. & Mantellier, P. : Histoire de la Communaute des Marchands ; de Nantes à Roanne, la Marine de Loire et de ses Affluents du Xe au XVIIIe Siècle. (10C-18C ロワール川商人共同体資料集)	2vols. 1988	文 学 部
2	Iranian Studies. Journal of the Society for Iranian Studies. (イラン研究誌)	Vol. 1 -19& Cumulative Index Vol. 1 -15 1968 -1986	〃
3	Collection of MIT Theses ; Linguistics. 1972 -1987, Ser. 3 ( MIT 言語学関係博士論文集、第3期)	No. 112 -131 1975 -1987 ゼロックス版	〃
4	Zeitschrift für Katholische Theologie. (カトリック神学雑誌)	Bd. 35 -68 1911 -1944	〃
5	帝國教育／帝国教育復刻版刊行委員会編 320-401号、明治42年3月-大正4年12月	合本40冊、別冊 1988 復刻版	教 育 学 部
6	Kreittmayr, Wiguleus Xaverius Aloysius : Anmerkungen über den Codicem Maximilianeum Bavaricum Civilem. 1758 -1768. (バイエルン-バヴァリア-民法典注釈)	Bd. 1 -5 1985 Reprint	法 学 部
7	法令全書総目録：昭和戦前編／林修三監修 別冊：項目別索引・法令全書所蔵図書館一覧 付	第1-20巻、別冊 1986	〃
8	National Reporter System. Atlantic Reporter, 2nd Series, Federal Reporter, 2nd Series. etc. (全米判例体系)	61vols. 1988	〃
9	Schubert, Werner (eingel. und hrsg.) : Bürgerliches Gesetzbuch für das Grossherzogthum Hessen. Entwürfe und Motive. 1842 -1853. (ヘッセン大公国民法典)	Bd. 1 -5 ( 6books ) 1986 Reprint	〃
10	Records of the Department of State relating to Commercial Relations between the United States and Japan 1910 -1949. (米国国立公文書館所蔵国務省公文書1911年の新条約 から対日占領期まで、日本と米国の通商関係)	17 reels Microfilm & Guide	経 済 学 部
11	近代史料陸軍省日誌／朝倉治彦編 (内閣文庫本「陸軍省日誌」85冊の縮写影印本)	1 巻-10巻 1988 -1989	〃
12	Mid -East Studies. (中東研究)	No. 1 -35 1986 -1988	〃
13	The British Library General Catalogue of Printed Books 1982 to 1985.	Vol. 1 -11 1986	附 属 図 書 館
14	I. B. Z. -Internationale Bibliographie der Zeitschriftenliteratur. (国際学術雑誌記事索引)	Vol. 23 1987	〃

## 昭和63年度高額二次資料の購入報告

Arts and Humanities Citation Index

Biological Abstracts/ RRM

Biological Abstracts/ RRM , Cumulative Index

Current Contents

Agriculture, Biology and Environmental Science

Arts and Humanities

Clinical Medicine

Engineering, Technology and Applied Sciences

Life Sciences

Physical, Chemical, and Earth Sciences

Social and Behavioral Sciences

Excerpta Medica (Full Subscription)

Government Reports Announcement and Index

Historical Abstracts

Physics Abstracts

Science Citation Index

Social Sciences Citation Index

◎ すべて継続購入です。

## 昭和63年度高額参考図書の購入報告

- (1) Beilstein Handbook of Organic Chemistry.
- (2) Gmelin Handbook of Inorganic Chemistry.
- (3) Landolt-Bornstein : Numerical Data and Functional Relationships in Science and Technology.
- (4) JIS 追録
- (5) 出版目録
  - ・ 日本書籍総目録
  - ・ Whitaker's Books in Print.  
(formerly : British Books in Print. ) (U. K. )
  - ・ Books in Print. (U. S. A. )
  - ・ Subject Guide to Books in Print. (U. S. A. )
  - ・ Paperbound Books in Print. (U. S. A. )
  - ・ Ulrich's International Periodicals Directory.  
(U. S. A. )
  - ・ Irregular Serials and Annuals. (U. S. A. )
  - ・ VLB Autoren-Title-Stichwörter. (mit Ergänzungsband) (W. G. )
  - ・ VLB ISBN -Register. (mit Ergänzungsband)  
(W. G. )

- ・ VLB Schlagwort -Verzeichnis.(W. G. )
- ・ DDR Gesamtkatalog.
- ・ Les Livres Disponibles. (France)
- ・ Canadian Books in Print.
- ・ Catalogo dei Libri in Commercio. (Italy)
- ・ African Books in Print/ Livres Africains Disponibles.
- ・ Indian Books in Print.
- ・ Ежегодник книги СССР.
- ・ Библиография изданий Академии наук СССР. Ежегодник.
- ・ International Books in Print.
- ・ International Verlagsadressbuch mit ISBN -Register.
- ・ Internationale Bibliographie der Reprints : International Bibliography of Reprints.

◎ すべて継続購入です。

## 「大惣本目録」第1、2分冊の刊行について

附属図書館には「大惣本」と呼ばれる江戸時代に刊行された和書の大きな文献類がある。江戸中期（明和年間といわれる）以降名古屋で手びろく貸本業を営んできた大惣（大野屋惣兵衛）の旧蔵本であり、附属図書館の創設とほとんど時を同じくして購入された。昭和60年以降、文学部国文学教室にこれの整理と書誌的な解題をお願いしてきたのであるが、62年までにその基本的な調査が終わり、その目録が63年度から3分冊の形で刊行されている。

目録の名称は「京都大学蔵大惣本目録」である。第1、第2分冊は大惣時代の獨得な分類項目別に編成された本文篇であり、各冊ごとに簡潔な註解が与えられている。第1分冊は随筆、絵本・読本、日記・紀行等を含む1,222部（131頁）、昭和63年3月刊行。第2分冊は絵本図絵、西鶴・八文字屋本、浮瑠璃丸本、黄表紙、幕府写本、往来書等を含む2,447部（254頁）、平成元年3月刊行。ひきつづき、書名索引、分類項目別索引からなる索引篇を準備中である。

## 「京都大学同和問題文献・資料コーナー 図書目録－1974～1988－」を刊行

今回刊行した目録には、昭和49年度～63年度までの15年間に受入れた図書：約1,107点、雑誌・新聞：約20種を収録しています。

また、これらの資料は、附属図書館、農学部図

書室、教養部図書館、医学図書館の資料コーナーに配架しています。

なお、この目録は2年に1回累積版として刊行し、全学の図書館（室）に配布しています。

---

## 利 用 者 と の 接 点

“図書館のカウンター”は  
何をしているか……

図書館利用者と図書館は、どこで、どのようにして結びついているのでしょうか。大部分の利用受付や質問などは、カウンターで扱っています。図書館ではカウンター業務を非常に重要視しておりますが、利用者からみると、どこで何をしているのか、わかりにくいのではないのでしょうか。

そこで、附属図書館の1階と3階の各カウンターで扱っている各々の業務内容をご紹介します。

### 《1階カウンター》

玄関に近い方から

1. インフォメーション・デスク（受付）
  - ・ 図書館利用証（Library Card）の申請、期限延長等の受付、紛失による再発行の受付及び発行
  - ・ 学外者の利用受付：「国立大学図書館間共通閲覧証」及び近畿地区公立大学教員・院生の「共通閲覧証」による入館受付。
  - ・ 他機関等所属者の「特別閲覧願」による入館受付。
  - ・ 学内図書館（室）の場所、利用方法等の案内。
  - ・ 全学総合目録の利用案内。
  - ・ 見学者（30分以内）の受付。

・その他

2. 開架図書の貸出（資料運用掛担当）

- ・ 2 階開架図書の借出し手続き。
- ・ 貸出期間・冊数は、2 週間以内、5 冊以内。
- ・ 研究個室・共同研究室の利用の受付。

3. 開架図書の返却（資料運用掛担当）

- ・ 開架図書の返却の受付。

4. 書庫内図書の貸出・返却（資料運用掛担当）

- ・ 書庫内図書の出納、貸出、返却の受付。
- ・ 教官、大学院生の入庫の受付。

5. 雑誌の貸出、返却

- ・ 雑誌の出納、貸出、返却の受付。
- ・ 雑誌の所蔵目録についての、質問の受付。

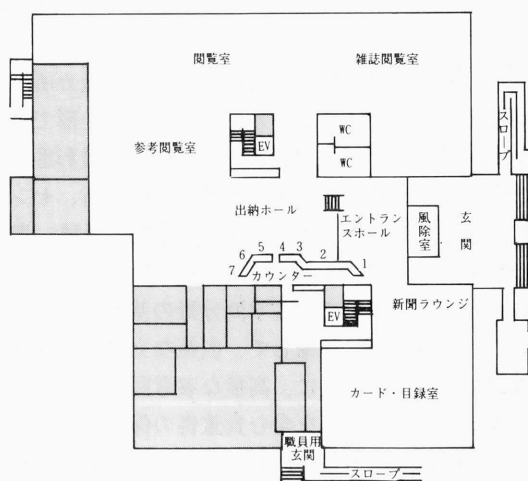
6. 相互利用（相互利用掛担当）

- ・ 学内未所蔵資料の国立国会図書館、他大学等及び外国からの複写による取寄せ。
- ・ 学内未所蔵資料の国立国会図書館、他大学からの現物（資料そのもの）借出し手続き（所蔵機関により借用できないところがある）。
- ・ 他大学図書館等を利用する際の紹介状の発行。

7. 参考調査（参考調査掛担当）

- ・ 図書館及び資料の利用方法（例えば、二次資料の利用方法等）。
- ・ 図書・雑誌の所在調査。
- ・ 特定図書・主題に関する資料の調査。
- ・ 情報検索（DIALOG, JOIS, NACSIS -IR 等）の代行。
- ・ テレックスによる国際通信送信（校費のみ）及び受信。

1 階

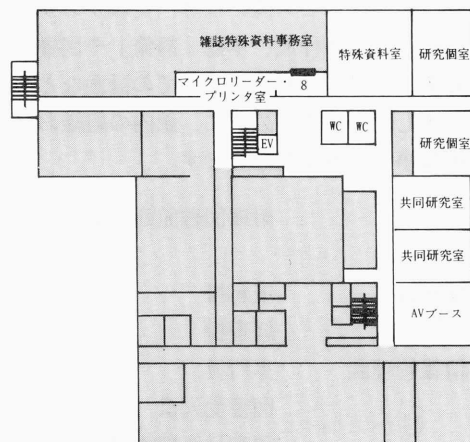


《3 階カウンター》

8. 特殊資料室カウンター（雑誌・特殊資料掛担当）

- ・ A V（視聴覚）資料（語学のみ備付け）の利用受付。
- ・ マイクロ資料の閲覧、プリントによる利用（当館所蔵資料に限る）。
- ・ 貴重書及びこれに準ずる資料の閲覧。
- ・ HRAF (Human Relations Area Files) 資料の閲覧。

3 階



## 図書館のカウンターの奥では…… —附属図書館の職員の仕事—

京都大学には、附属図書館のほかに50数カ所の図書館（室）があり、それぞれが独立した形で運営されています（中央館と分館という組織形態ではなく、それぞれが学部、教養部、研究所、センターなどに所属する）。その蔵書冊数、面積、職員数も大小さまざまです。附属図書館は其中最も大きい図書館で、各学問分野の基本図書や教養のための図書を整備して、広範な立場から大学教育を支援すると共に、高額な参考図書の体系的な収集、重要文化財を含む貴重書の保存、全国国立大学の理工学系外国雑誌センター館としての学術雑誌の収集など、研究者の方々にも利用出来る図書館をめざしています。

このような役割を果たすために、日頃カウンターからは見えない附属図書館の内側で、職員がどのような仕事をしているのか、最近、課名や掛名が変更されたのを機会に、ここで簡単に紹介します。

附属図書館には総務課、情報管理課（旧整理課）、情報サービス課（旧閲覧課）の3課があり、これを総括する事務部長職、さらに館長職があります。附属図書館の運営に関する重要事項は、教官によって構成される商議会（議長：館長）で決定されます。各課は、いくつかの掛（京都大学では「係」ではなく「掛」です）で構成されていますが、情報管理課、情報サービス課には専門員職がおかれ、特殊な資料の目録の作成、本誌「静脩」や図書館案内の編集、図書館の利用についての計画などの仕事に従事しています。以下に、館内の組織および各掛の仕事の内容を列記します。

館長	附属図書館商議会
事務部長	
総務課	庶務掛
	経理掛
情報管理課	専門員
	図書受入掛
	和書目録情報掛

	洋書目録情報掛
	システム管理掛
情報サービス課	専門員
	参考調査掛
	資料運用掛
	雑誌・特殊資料掛
	相互利用掛

### 庶務掛

図書館の大元締め役割を担う掛で、公的な諸会議や行事の開催、諸規程の整備、職員の人事、図書系の諸研修、文書の接受、調査統計の取りまとめなどを担当しています。昭和59年4月に新館が開館してから多くなった学外からの見学者の案内窓口でもあります。

### 経理掛

財布の紐をしっかり握って、図書館の家計簿を預かる掛で、予算の立案や執行、物品の購入や管理、建物の管理や修繕、職員の給与や出張旅費の支給などの仕事をします。また、職員の生活を守る共済組合の担当でもあります。

### 図書受入掛

図書館で受け入れる購入・寄贈図書の選択、発注、受入、装備の仕事を担当する掛で、大部分の図書館資料がここを通じて図書館に入って来ます。また、製本雑誌を含む全学の図書は物品として登録され、蔵書統計などが作成されています。

### 和書目録情報掛

### 洋書目録情報掛

図書館資料と利用者を結びつけるための重要な手掛かりである目録を作成する掛です。目録には、カード形式、冊子体形式、そして最近ではコンピュータ処理によるオンライン形式のものがあり、本学でも、学術情報センターに保有する全国の大学の目録情報データベースに掛員が直接オンラインで目録データを入力しています。掛は、和漢書担当と洋書担当にわかれています。

#### システム管理掛

図書館業務のコンピュータ処理という、数年前までの図書館にはなかった仕事を担当する掛で、コンピュータやデータの管理、業務用プログラムの作成や修正の仕事をします。また、他大学・他機関との図書館ネットワークシステムの窓口でもあります。

#### 参考調査掛

辞書や文献目録などの参考図書の利用に関する仕事のほか、文献の所在調査などに応じる掛で、カウンター以外にも電話や郵便でたくさんの問い合わせが来ます。最近では、オンラインデータベースによる情報検索（校費）や外国との通信（校費）に Telex が利用されています。

#### 資料運用掛

図書館資料の貸出、返却を通じて利用者の方々にもなじみの深い掛です。図書館利用証の発行や購入希望図書の受付、また開架図書、書庫内図書の整備、閲覧室の環境整備などを行います。夜間や土曜日は、学生アルバイトもカウンターを担

当し、館内でも活気あふれたところです。

#### 雑誌・特殊資料掛

雑誌の選択、発注、購入、寄贈受入のほか、マイクロ資料、視聴覚資料などの特殊資料の受入、整理などを担当します。貴重書は保存と、閲覧利用の窓口です。視聴覚資料については、A V プースでの利用のための貸出窓口にもなっています。冒頭で述べました理工学系外国雑誌センターや学内のバックナンバーセンターとしての仕事、展示会の開催なども担当します。

#### 相互利用掛

他大学図書館やそれ以外の図書館との相互利用に関する仕事をする掛で、利用者の学外図書館利用のための紹介、図書の図書館間貸借をおこないます。また、国内外への複写依頼、逆に国内からの複写受付も担当しています。複写するにあたっての所在調査、複写物の作成、受渡し、発送、料金徴収などもおこなっています。館内で現金収入のある唯一の掛です。

## 図書館間貸出にかかる「現物貸借申合せ」について

図書館のサービスにはさまざまなものがありますが、そのひとつに現物貸借があります。これは他館から資料を借用するのですが、図書館間での貸借であるのが原則です。

現状：本館では相互利用掛のカウンタでこのサービスの受付をしています。毎年200冊弱を他大学等から借り、逆に450冊程度を貸し出しています。貸出資料は本館と学部図書室備付のもので、主題でみると人文社会学系が8割、出版年から見ると出版後10年以上を経過したもので、絶版になっている可能性があるものや、ある程度評価の定まったものが多いという利用特性があります。読みたい資料が遠隔地にありどうしても入手できない場合などに利用されており、その利用率は毎年1割の上昇を示していることから考えると図書

館のサービスの中でも一定の役割を果たしていると言えます。

#### 成立過程：

さて、この現物貸借ですが前述のように図書館間での相互協力なので、各図書館同志で共通理解とルールを持つ必要があります。従来は「文献相互利用申合せ」（昭和33年全国図書館長会議採択於名古屋大学）がこれに該当するものでしたが、①情報提供の環境が30年前と全く異なり、現在展開されている学術情報システム内のILL体制に効果的な対応ができない。

②実務マニュアルが（案）である。

等の理由で今改めて制度を確立したいとの要求が出てきました。これを受けて制度的な合意をはかるため国立大学図書館協議会は昭和61年総会に於

いて「相互貸借の推進方策調査研究班」を発足させ2年後の昭和63年総会で「調査研究班報告」を採択。これを受けた各大学図書館は1年間の検討期間をもって本年6月第36回同協議会総会（於弘前大学）で「現物貸借申合せ」及び「現物貸借申合せに関するマニュアル」を成立させました。

内容：

近年文部省が推進している学術情報システムの基本理念は「資源の共有」ですがこの「申合せ」全体を流れる思想も資源（資料）の利用の円滑化を目指すものであると言えます。国立大学の長い伝統、研究分野の網羅性、平均的な全国分布等の点から図書館間の相互依存関係は今や整備さるべき必須の事態であり、従来の「文献相互利用申合せ」には必ずしも明確でなかった「資源共有」の理念はこの「申合せ」に於いてはっきりと打ち出されています。

文中には、依頼館の責務、受付館の責務が列記されており、続いて費用、申合せ違反等についても明快な記述があります。

依頼館に求められていることは

- ① 依頼すると同時に受付もすべきであること。
- ② （他館のサービスに頼らないで済むよう）  
自館利用者のニーズに対応できる蔵書構成を考えること。
- ③ 依頼する際は、書誌調査、所蔵調査を完璧に行うこと。
- ④ 申込はできるだけ複写で済ませること。  
複写をする場合は著作権法上適法であること。
- ⑤ 現物貸借用の標準フォーマットを使用すること。
- ⑥ 資料の安全については依頼館が全責任を持つこと。失った場合は弁償すること。
- ⑦ 資料の利用は受付館側の貸出条件に従うこと。
- ⑧ 利用者が受付館を直接訪問して資料を借用する方法を認めること。

等が主な事項であり、依頼館側の配慮・準備が当然のことながら強く求められるものになっています。

受付館側は、

自館の利用者を最優先しつつも、他館からの依頼にはできるだけ寛大であること。

がメインでありレンディング・ポリシー（貸出条件）を明示し、その処理は迅速であること等が規定されています。

費用については、依頼館がすべて責任を持つこととなっていますが、貸し出すことについての調査料、手数料的なものは一切ありません。

貸出期間は20日。これは資料が貸出のために発送されてから受付館に返納されるまでの期間です。

以上が「申合せ」の概略ですが、これらは言うまでもないことですが道義的な指針であって強制力をもつものではありません。謂はば館相互の信頼関係に基づいたものであり、各々の図書館の自主性を認めるが故に推進力の弱さをも持つことになりました。

この「申合せ」は、業務の標準化のためのマニュアルも同時に備えています。細かな実務の部分は省略しますが、一つだけ特徴的なことは、校費利用ができるようになったことです。複写は現在のところ大学毎に料金の一括精算がおこなわれていますがこの制度に乗かって同様のフォーマットを用いることによって校費利用の可能性を求めたわけです。

将来の課題：

以上のように、本年6月をもって現物貸借は規約、マニュアルの面から実務上の制度化にむけて再スタートしたわけですが、この制度が定着し充実していくかどうかは、（図書館・室所蔵の資料を除き）研究用資料の直接の使用者である教官及び運用の担当者である図書館職員にかかっています。教官の側からは、「資源の共有」の面から学外の利用者にも門戸を開き、職員の側からは自館の資料のニーズに学内外ともに応えていけるかどうかにあるでしょう。

複写を含めた相互貸借サービスは、究極は完全に人的な作業であり如何に機械化がはかられようともそのための省力化は期待できるものではありません。サービスを深め広げれば広げる程利用の相乗効果によって次のサービスが求められて来ます。図書館のサービスのあり方が、真に問われる時代になったと言うべきでしょう。

## 「外国出版物の購入価格問題に関する調査研究」の報告書まとまる

国立大学図書館協議会では、昭和62年7月の草津総会において「外国出版物購入価格問題調査研究班」を設置し、円高に見られる為替相場の著しい変動の中で、国立大学図書館が購入する外国出版物について、適切な価格や購入方法の在り方を探るための調査研究をおこない、昭和63年6月に第1次報告書をまとめ、平成元年6月、最終報告書をまとめた。

## 「目録システム講習会」を開催

目録・所在情報の形成をより一層促進するため目録担当者の養成が迫られている。このため、学術情報センターと本学附属図書館の共催により近畿北部地区ネットワーク加盟館（滋賀、京都、奈良の国立大学）を対象に目録システム講習会（地域講習会）が下記のとおりに開催された。

### 記

期 間： 8月29日～9月1日、9月5日～9月8日

場 所： 本学附属図書館地域共同利用室

受講者： 20名

なお、第1日目（8月21日）は、神戸大学自然科学研究科において学術情報センターの講師により「目録システム概論」および「目録情報の基準」についての講義があった。

## 《主題別研究集会》

## CD-ROM の 利 用 状 況

近畿地区国公立大学図書館協議会主催の主題別研究集会が去る5月12日、京都大学附属図書館3階、A Vホールにおいて行われ、14大学から50名の参加があった。講師はコロンビア大学バトラー図書館情報技術部次長アニタ・ローリィ女史、ニューヨーク公共図書館研究図書館アン・スケリオン女史により講演され、通訳は松本女史が努められた。はじめに、アニタ・ローリィ女史が「コロンビア大学図書館におけるCD-ROMの利用状況」について、CD-ROMを導入する契機となったピューメモリアルトラストから、1987～1988年の2年間にわたり補助を受け、これによりCD-ROMの技術的評価、利用者や図書館に対する影響を調査した結果、現状及び展望について話された。この中で、1986年に市販されているCD-ROMは25種であったが1988年の後半には250種近

くになり、多くの主要なレファレンス・ソースがCD-ROMで利用できるようになった。OCLCの調査によると大学、研究図書館が他の図書館に比べCD-ROMを所有する傾向にある。ピューメモリアルトラストからの助成金により、36種のBibliographic及びNon-BibliographicのCD-ROMについて評価をすることができた。また、研究過程でのCD-ROMの果すユニークな働き及び図書館業務に対するCD-ROMの影響等について多くの様々な知識、経験を得ることができた。

次いで、アン・スケリオン女史が「ニューヨーク公共図書館におけるCD-ROMの利用状況」について、大都市の研究図書館でのCD-ROMの最近の利用状況、評価及び展望について話された。この中で、同図書館がCD-ROMを導入し



たのは、部門、スタッフの主導的役割と小規模でもって個人的に行われたが、この状況は利用者に対する情報提供及び教育的サポート面から理想的でなかった等、CD-ROM導入の経緯そして新たに開設される電子情報図書館においての将来展望及びCD-ROMの利用は研究と学問の新しい資源として非常に重要であり、利用希望者は潜在的に多いことがわかった。

以上、2題にわたって講演があった。

## 平成元年度 調査研究員の委嘱

平成元年度附属図書館調査研究室の調査研究員に、下記3名の教官が昨年度に引続き委嘱されました。委嘱期間はいずれも平成元年4月1日から同2年3月31日までです。

文 学 部：日野龍夫 教授  
調査研究事項：「大惣本」目録索引作成

大型計算機センター：星野 聰 教授  
調査研究事項：目録カードによる遡及入力の研究

大型計算機センター：金澤正憲 助教授  
調査研究事項：遡及入力標準フォーマットの設定

## 昭和63年度附属図書館の利用概要

附属図書館は新館開館（59年4月）から5年目を迎え、機構面での課名変更、サービス面での外国学術図書（洋書）等の開架資料の拡充、AV資料の充実及び、利用者の為のオンライン目録検索の開始等、順次環境も整備されてきている。附属図書館では、毎年、図書館の利用実態把握の一つとして利用統計を分析し、様々な改善をはかる資料としている。この2～3年、統計上に大きな変化は見られず、一定した動きをみせている。

以下に昭和63年度の利用概要を紹介する。

### 1. 入館者

年間265日開館し、588,860人、一日平均約2,300人が入館した。特に2月24日には3,820人の入館者数を記録した。全体的に昨年度よりやや減少気味である。月別では2月が最も多く61,908人（一日平均約3,000人）であった。

時間帯では開館時間9～21時のうち、昼間（9～17時）が全体の83%を、特に12時から15時までの3時間に1日の38%の入館者が集中している。

入館者数の月別変動は、大学行事等の季節要因による。試験期である2月をピークに、6月、9月と入館者数は多く、時には閲覧席が確保できない日もあった。

【注】この数字は、利用証によってカウントされた人数で、他に十数%程の入館者がある。

### 2. 図書の貸出

開架図書と書庫内図書との貸出冊数の割合は84：16となっており、合せて77,129冊が41,101人に対して貸出された。全体として順調な伸びがみられ、特に開架図書の利用が目立つ。

開架・書庫内図書の貸出、雑誌・参考図書の一時貸出及び貴重書の閲覧総数は113,136冊であった。尚、全般的に自由接架による開架図書の増加や、複写設備の充実等により、把握できる対象は益々減少する傾向にある。

部局別では文学部が最多冊数（19,655冊）で貸出密度（貸出冊数÷登録者数）においても11.2冊と他学部よりも群を抜いて多い。次いで教育学部

## 昭和63年度 附属図書館図書貸出利用統計

区 分	開架(冊)	書庫(冊)	計(冊)	比(%)	教 官	職 員	大学院生	学 生	利用人数(人)
和 書	64,018	12,006	76,024	99	2,994	1,439	16,664	54,927	} 41,101
洋 書	571	534	1,105	1	129	46	468	462	
計(冊)	64,589	12,540	77,129	開館日 一日当り 291冊	3,123	1,485	17,132	55,389	一人一回 当り 1.9冊
構成比(%)	84	16			4	2	22	72	

## 昭和63年度 附属図書館資料別閲覧利用統計

区 分	利 用 冊 数 (冊)			学内・ 外比 (%)	利 用 人 数 (人)		
	学内	学外	計		学内	学外	計
普通図書	—	3,312	3,312	—	—	605	605
貴重図書	1,580	1,836	3,416	46:54	193	169	362
特殊資料	105	68	173	61:39	47	14	61
参考図書	3,061	121	3,182	96:4	1,774	67	1,841
新 聞	11,485	918	12,403	93:7	1,371	133	1,504
雑 誌	11,010	2,511	13,521	81:19	5,134	722	5,856
計	27,241	8,766	36,007	76:24	8,519	1,710	10,229

※閲覧：自由接架による利用数は把握できない。  
 ※学内利用者の普通図書の利用は貸出とした。  
 ※特殊資料：マイクロフィルム及びマイクロフィッシュ資料

(6.6冊)と続き、全般的に近接部局の学生の利用が多い。

身分別では学生の利用が全体の69.2%を占め、他の利用層の群を抜いているが、学生1人当りの貸出数は約2冊である。

### (1) 開架図書

開架図書(約64,300冊)の配架状況は、言語・文学分野が全体の15.0%、法学・政治分野11.2%、次いで数学・物理、歴史・地理分野が、各10.8%となっている。今年度は蔵書構成上、自然科学分野にもかなりの配慮をしている。

貸出冊数は64,589冊と昨年より増加している。これを分類別に見ると、数学・物理が26.6%と他分野に比して圧倒的に多く、回転率においても同分野の図書は1冊当り年間約3回貸出されている。

身分別では学生が78.4%(52,043冊)を占め、この内訳は、教養課程学生32.0%(16,660冊)、学部学生68.0%(35,383冊)である。

### (2) 書庫内図書

12,540冊が貸出され、院生が42.0%と最も多く、

次いで学部学生、教官の順で、一人当り貸出冊数では教官が最も多い。

分類別では、人文・社会科学分野が圧倒的に多く①言語・文学、②歴史・地理、③芸術の順で、開架図書と大きな差異がある。

## 3. 参考調査

### (1) 文献調査

所蔵調査の受付(文書、電話)4,363件(内訳：文書2,303、電話2,060)

文書による調査依頼の殆どは大学図書館間の相互利用によるものである。電話では学外から4割の調査依頼を受けている。

### (2) 情報検索(JOIS、DIALOG)

校費による代行検索は、JOIS 15件、DIALOG 43件、計58件受付、データベースの検索回数は、202回であった。これは61年度の18件51回、62年度の37件190回からみて増加の傾向にある。この他に学内システム(大型計算機センターシステム)の検索も行っている。

(3) テレックス

1,107件（送信374、受信733）

4. 貴重書の閲覧

貴重書の利用は3,416冊（362人）で、前年度の利用2,427冊（329人）と比較すると40.0％（10.0％）の増加である。学内と学外者の利用冊数比は46：54であるが、利用者数比は逆転して、53：47となっている。学内利用者の構成では、院生と教官の利用冊数はほぼ同数で、両者あわせて学内利用の80.0％を越えている。

利用頻度の高い資料は、前年度と同じく文庫でない単独の貴重書が648冊（20.0％）で最も多く利用され中院本451冊（13.0％）、平松本313冊（9.0％）、清家本255冊（7.0％）と続いている。63年度の利用の特徴は各文庫の利用構成比が均等化したことである。また、特に利用が集中した月は、7、10、11、2月で、例年とはほぼ同じである。

5. A V（視聴覚）資料

利用に大きな変化は見られない。63年度の利用状況は以下のとおりであり、（ ）内は前年度比である。

利用回数：5004回（－213）  
実質利用者数：598人（＋7）  
1日平均利用回数（平日）：21回（－0.9）  
（土曜日）：8.5回（＋0.9）  
ビデオとL Lの利用回数比：56：44（56：44）

言語別利用状況

	英	独	仏	露	中	日	手	計
ビデオ(回)	1688	191	303	33	223	377	3	2818
(%)	59.9	6.8	10.8	1.2	7.9	13.4	0.1	
L L(回)	1696	120	231	34	77	28		2186
(%)	77.6	5.5	10.6	1.6	3.5	1.3		
計(回)	3384	311	534	67	300	405	3	5004
(%)	67.6	6.2	10.7	1.3	6.0	8.1	0.1	

6. 図書館間相互協力

(1) 他大学等への紹介状の発行

① 国立大学共通閲覧証：193件

② 公私立大学等：410件

(2) 文献複写

① 受付：8,439件

② 依頼（国内）1,500件  
（外国）119件

受付8,439件のうち588件（7％）が謝絶で、この大半は所蔵なし及び書誌事項記入の不備であった。機関別では国立大学から6,239件（73％）、私立・公立大学1,520件（18％）、個人・企業等582件、国立機関98件となっている。

また、本学からの依頼（国内）1,500件のうち、国立大学へ905件（60％）、私立・公立大学へは595件行った。

(3) 図書の現物貸借

所属機関にない資料の利用については、図書館間相互協力活動のうち、図書館資料そのものを貸し借りする、いわゆる現物貸借制度を活用している。本学においてもこの制度の運用により学内外に多くの研究に寄与している。

①他大学への貸出

受付総数	所 蔵		貸 出	
	有	無	可	不可
665件	632	33	477	188
100%	95	5	72	28

貸出不可188件の内訳は、所蔵図書室が貸出不可34％、所蔵なし17％等であった。

②他大学等からの借用

受付総数	所 蔵		借 用	
	有	無	可	不可
205件	203	2	155	50
100%	99	1	76	24

借用不可50件の内訳は、所蔵なしのほか、所蔵図書室が貸出不可10件（20％）、国立国会図書館貸出制限資料6件（12％）等であった。

借用者を身分別に見ると、院生の利用が最も多く112人（54％）、次いで学部学生27人、助教授の

利用が20人あった。

7. 学外者の利用

「京都大学附属図書館学外者利用内規」及び、共通閲覧証による近畿地区区公立大学間の相互利用の運用開始等、サービス範囲も広がり、また、理工学系外国雑誌センター、大型コレクション資料など、全国的な共同利用が原則の資料の増加に

伴い、学外者の利用は増加の傾向にある。

利用者も本学卒業生から一般市民まで広範囲であり、特に最近では、国際化時代を迎え、留学生は勿論のこと、一般外国人研究者の利用も増加してきている。

年間利用数8,766冊（1,710人）、一日の平均閲覧数35冊（7人）で、一人当たり平均5冊の利用であった。

学外者閲覧利用所属機関別内訳

区 分		図 書		貴重書		特殊資料		新 聞		雑 誌		参考図書		計		構成比	
		冊数	人数	冊数	人数	冊数	人数	冊数	人数	冊数	人数	冊数	人数	冊数	人数	冊%	人%
卒 業 生		797	193	97	1			286	57	674	208	52	32	1906	491	21.7	28.7
他 大 学	国立大学	649	133	128	14	2	1	201	19	778	183	12	8	1770	358	20.1	20.9
	公立大学	119	23	137	17	57	6	26	2	58	22	6	4	403	74	4.5	4.3
	私立大学	647	164	832	84	9	7	168	29	729	237	19	10	2404	531	27.4	31.0
そ の	一般市民	223	20	62	7			72	12	113	28	5	3	475	70	5.4	4.0
	機関・研究所	859	65	564	30			112	10	146	41	25	8	1706	154	19.4	9.0
他	外 国 人	18	7	16	16			53	4	13	3	2	2	102	32	1.2	1.9
計		3312	605	1836	169	68	14	918	133	2511	722	121	67	8766	1710	100.0	100.0

「新入生のための  
Library Guide 1989」の発行

新入生が最初にもっともよく利用する教養部図書館と附属図書館を紹介するために今年も小冊子“ライブラリーガイド”を発行し、各学部事務室（教務掛）を通じて新入生全員に配布しました。

京都大学には、教養部図書館、附属図書館のほか、各学部・研究所等にも多数の図書館（室）があり、現在蔵書数は図書約470万冊、雑誌約5万8千タイトルを所蔵しています。

このライブラリーガイドでは、上記2つの図書館の利用方法をイラスト入りで説明するほか、全

学の図書館（室）についても附録の配置図等で利用条件などがわかるようになっています。

この利用案内を参考にして、新入生の積極的な図書館利用を期待しています。

なお、教養部図書館・附属図書館の利用には、「図書館利用証」が必要ですので、まだの人は、附属図書館の受付（インフォメーションカウンター）で利用証（ライブラリーカード）の交付をうけてください。

# 昭和63年度 蔵書統計

(平成元年3月31日現在)

部 局 名	純 増 加 数 (冊)			蔵 書 累 計 (冊)		
	和 書	洋 書	合 計	和 書	洋 書	合 計
附 属 図 書 館	6,223	2,198	8,421	453,479	237,306	690,785
文 学 部	5,659	3,983	9,642	418,840	269,688	688,528
教 育 学 部	2,460	1,504	3,964	55,168	42,893	98,061
法 学 部	3,481	4,282	7,763	210,121	280,234	490,355
経 済 学 部	3,566	2,842	6,408	180,915	180,988	361,903
理 学 部	668	3,404	4,072	39,117	184,261	223,378
医 学 部	871	2,181	3,052	39,716	97,564	137,280
附 属 病 院	20	66	86	11,658	22,383	34,041
薬 学 部	186	736	922	9,283	22,848	32,131
工 学 部	2,213	5,181	7,394	132,766	223,077	355,843
農 学 部	1,999	1,594	3,593	154,503	133,953	288,456
附 属 農 場	0	0	0	1,055	111	1,166
附 属 演 習 林	215	64	279	8,765	3,257	12,022
教 養 部	6,648	6,151	12,799	267,962	225,717	493,679
化 学 研 究 所	69	739	808	7,805	29,807	37,612
人 文 科 学 研 究 所	6,687	1,239	7,926	372,852	53,061	425,913
胸 部 疾 患 研 究 所	19	197	216	1,603	3,880	5,483
原 子 エ ネ ル ギ ー 研 究 所	45	315	360	4,579	11,289	15,868
木 材 研 究 所	61	98	159	4,861	4,604	9,465
食 糧 科 学 研 究 所	61	247	308	3,866	9,052	12,918
防 災 研 究 所	109	841	950	8,268	18,838	27,106
基 礎 物 理 学 研 究 所	61	1,108	1,169	4,051	31,359	35,410
ウ イ ル ス 研 究 所	5	98	103	413	9,172	9,585
経 済 研 究 所	714	1,210	1,924	33,352	25,532	58,884
数 理 解 析 研 究 所	219	1,770	1,989	5,544	59,284	64,828
原 子 炉 実 験 所	168	988	1,156	13,653	25,740	39,393
霊 長 類 研 究 所	213	532	745	3,192	8,236	11,428
東 南 ア ジ ア 研 究 セ ン タ ー	653	1,891	2,544	12,467	39,664	52,131
大 型 計 算 機 セ ン タ ー	386	567	953	2,714	6,798	9,512
放 射 線 生 物 研 究 セ ン タ ー	0	0	0	209	1,305	1,514
超 高 層 電 波 研 究 セ ン タ ー	1	64	65	454	2,143	2,597
ヘ リ オ ト ロ ン 核 融 合 研 究 セ ン タ ー	30	139	169	867	2,037	2,904
環 境 保 全 セ ン タ ー	15	76	91	452	216	668
情 報 処 理 教 育 セ ン タ ー	0	11	11	223	462	685
医 用 高 分 子 研 究 セ ン タ ー	77	6	83	205	140	345
ア フ リ カ 地 域 研 究 セ ン タ ー	138	1,660	1,798	1,405	3,414	4,819
本 部	0	0	0	5,116	575	5,691
医 療 技 術 短 期 大 学 部	932	333	1,265	17,670	4,079	21,749
合 計	44,872	48,315	93,187	2,489,169	2,274,967	4,764,136
(注) 本部とは、庶務・経理・施設・学生各部及び保健診療所・保健管理センター						

京都大学附属図書館報「静脩」 Vol. 26, No. 1, 2 (通巻93, 94号) 1990年1月31日発行・編集：静脩編集委員会 (責任者 附属図書館事務部長) 発行：京都大学附属図書館・京都市左京区吉田本町・☎075-753-2613